

# 目 次

はじめに	1
環境影響監視結果の概要	2
調 査 結 果	
1 調査の概要	5
(1) 調査内容	5
(2) 調査実施機関	6
(3) 調査期間	6
2 環境放射線監視調査結果	19
(1) 空間放射線空気吸収線量率等	19
(2) 気象観測	20
(3) 環境試料の核種分析	21
3 温排水影響調査結果	60
分布調査	60
参 考 資 料	
1 全国の自然放射線量	71
2 原子力発電所運転・建設等状況	72
3 高浜発電所運転状況	76
4 高浜発電所放射性廃棄物放出実績	80
5 高浜発電所及び大飯発電所に関する環境測定技術検討委員会要綱	84
6 調査の目的	87
7 測定結果の評価について	89
8 用語の説明	90



# はじめに

京都府では、府民の健康と安全を守るため、府域に隣接して立地する関西電力株式会社高浜発電所及び大飯発電所の環境への影響について、1号機の運転開始に先立つ、昭和48年度から監視を実施してきました。

これまでから、環境放射線テレメータシステムの整備・拡充や環境試料の調査項目の追加等、監視体制の充実強化を図ってまいりましたが、平成23年3月に発生した福島第1原子力発電所の事故を契機として、同社の大飯発電所も監視することとし、両発電所に対するきめ細かな監視を実施しているところです。

また、監視の実施等に当たり、高浜発電所及び大飯発電所に関する環境測定技術検討委員会（放射線に関する有識者等の意見を聴取する会議。以下同じ。）を設置し、平成25年度の監視結果についても、「周辺環境に対する影響は認められず、環境安全上問題はなかった。」との意見をいただいております。

本書は、平成25年度の監視結果について、府民の皆様の参考にしていただくため公表するものです。

平成26年12月

京都府文化環境部環境・エネルギー局長 石野 茂

# 環境影響監視結果の概要

平成25年度に実施した高浜原子力発電所周辺の環境影響監視結果の概要は次のとおりでした。

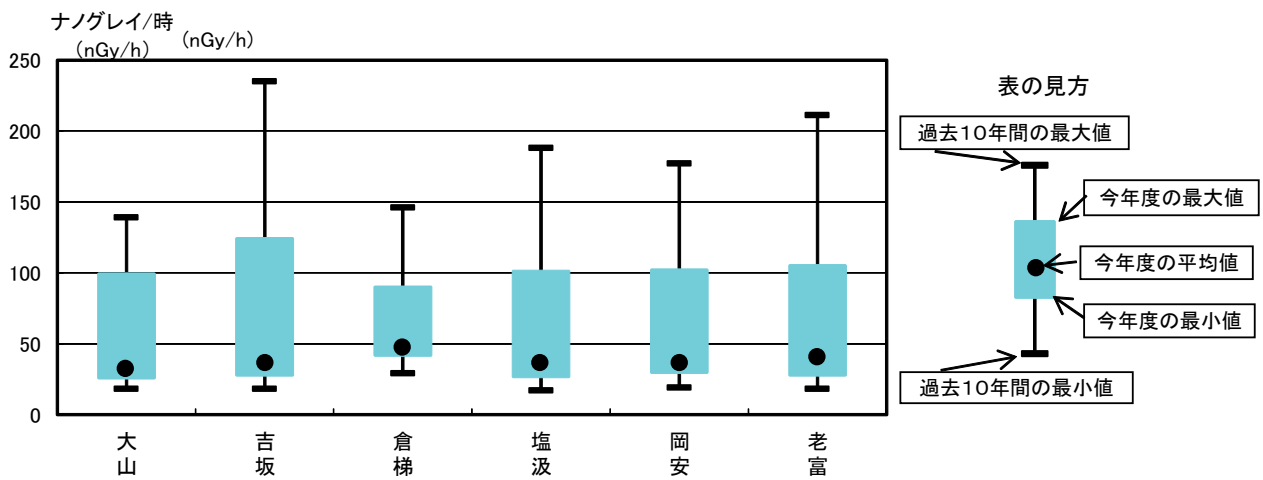
## 1. 環境放射線監視結果

### ☆空間線量モニタリングについて

#### 空間放射線量率

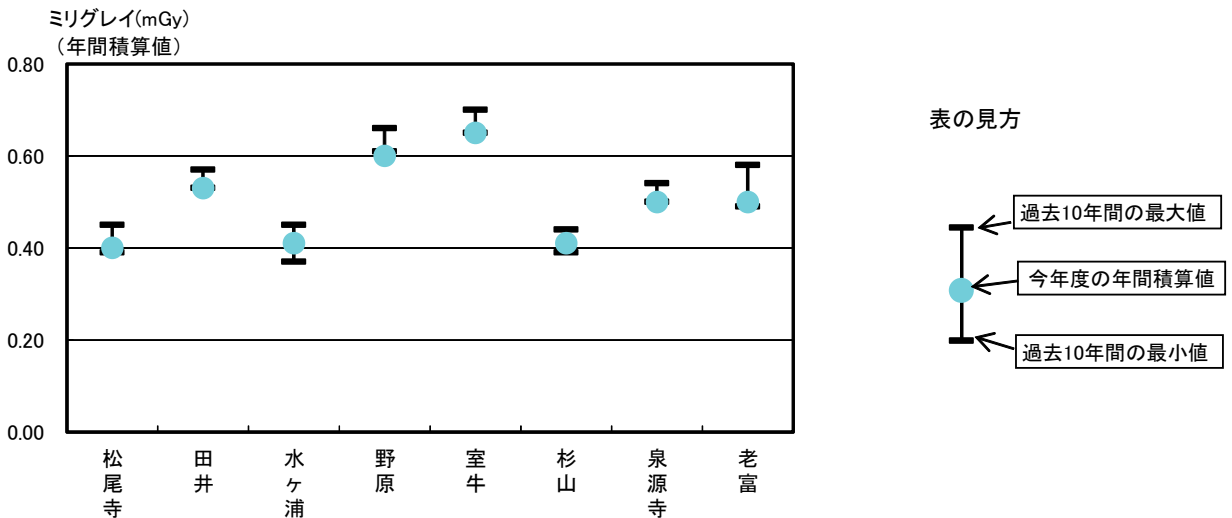
放射線測定所(6か所:舞鶴市内5か所、綾部市内1か所)において、空間放射線が1時間あたりどのくらいであるかを測定しています。

各地点の測定結果は、すべて異常は認められず、安全上問題ありませんでした。



#### 積算線量

モニタリングポイント(26か所)において、空間放射線が3ヶ月間(92日)でどのくらいになるか測定しました。各地点の測定結果は、概ね過去の値の変動範囲内にあり、安全上問題ありませんでした。なお、下の表は8箇所の測定結果をグラフに示したものです。



## ☆陸上、海洋モニタリングについて

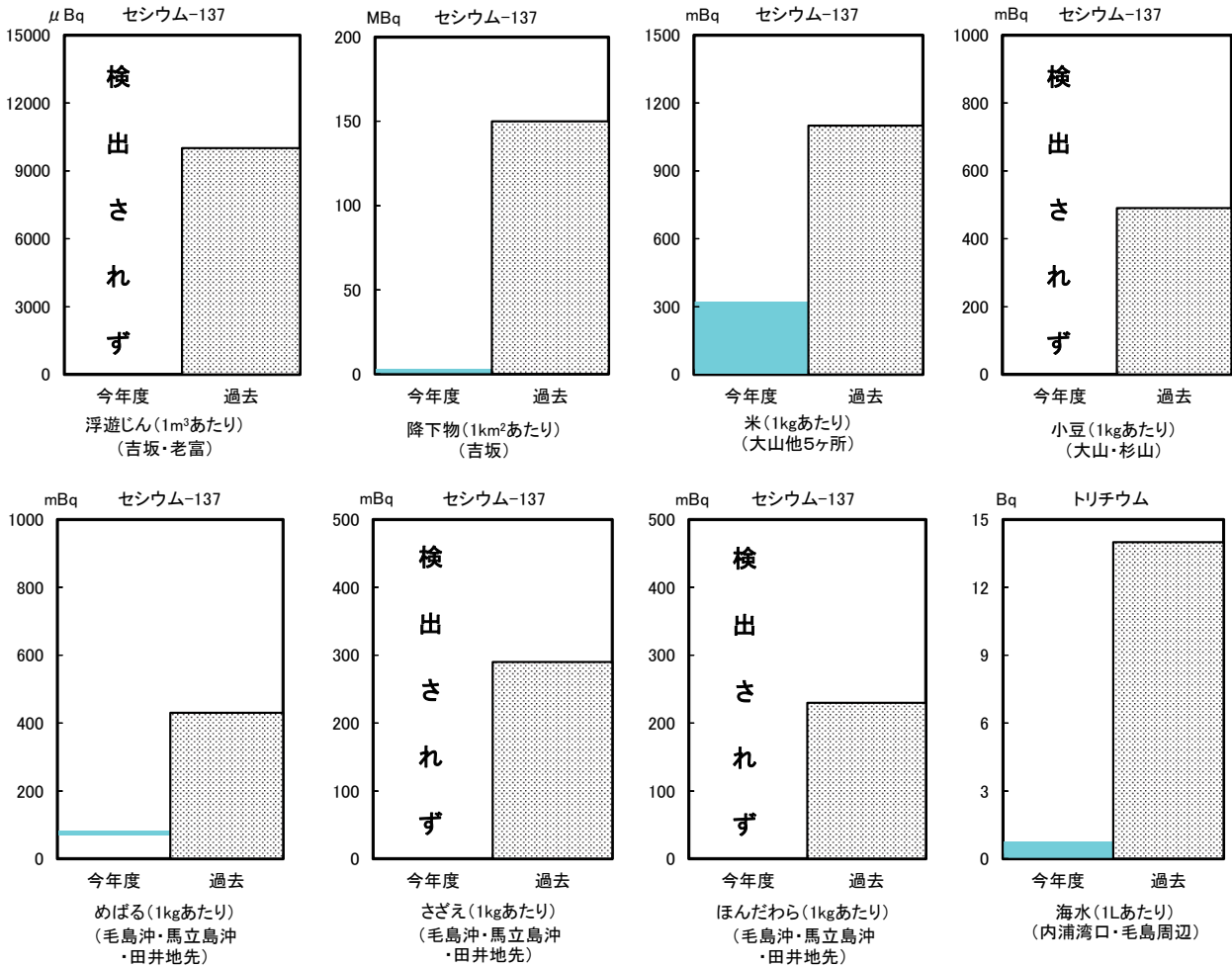
### 核種分析

私たちが口にする農作物、海産物や牛乳、また、雨や河川水、浮遊じんなどの放射能や含まれる核種について測定を行っています。

測定結果は、すべて過去の範囲内で、安全上問題ありませんでした。

過去から検出されているCs-137以外に、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる半減期の短いCs-134が極めて微量検出されましたが、過去の検出値と比べて小さい値でした。なお、トリチウムは自然界にも存在する放射性核種です。

代表的なものについてグラフに示しました。



※過去の値は、チェルノブイリ事故から福島第一原発事故前までの濃度範囲

## 2. 温排水影響監視結果

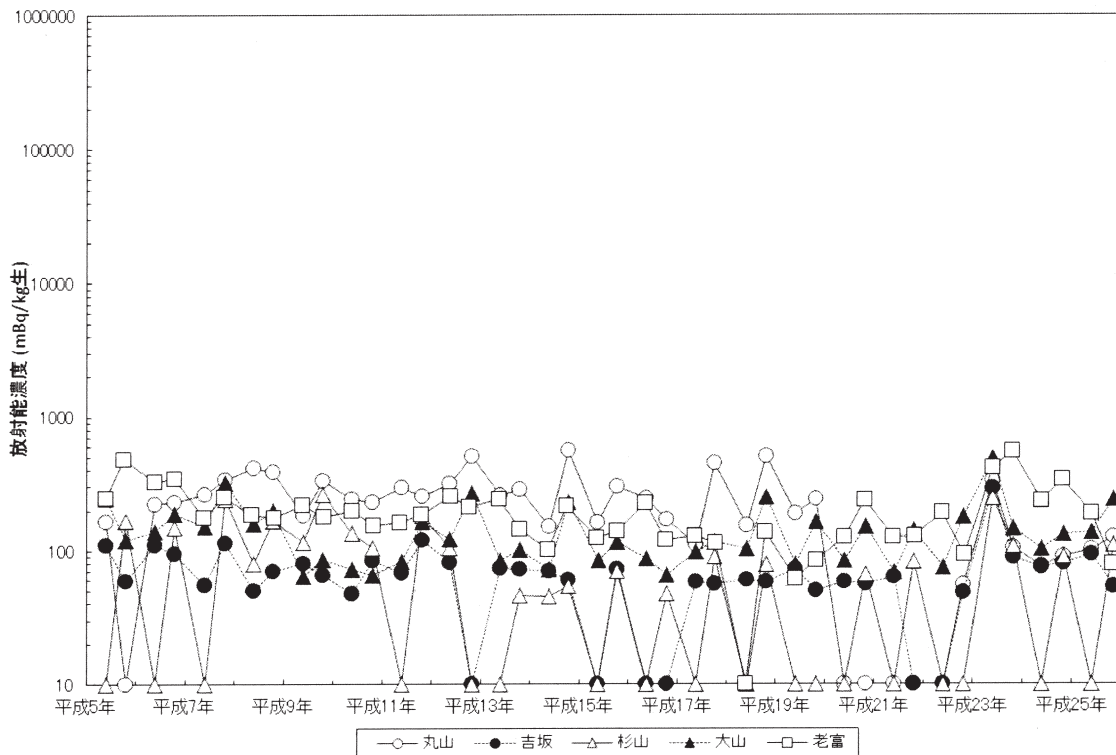
高浜発電所からの温排水の拡散状況を調査しています。

毛島周辺から馬立島周辺に至る25定点における水温、塩分等の分布調査を年6回行った結果、環境安全上問題はありませんでした。

(核種分析の経年変化)

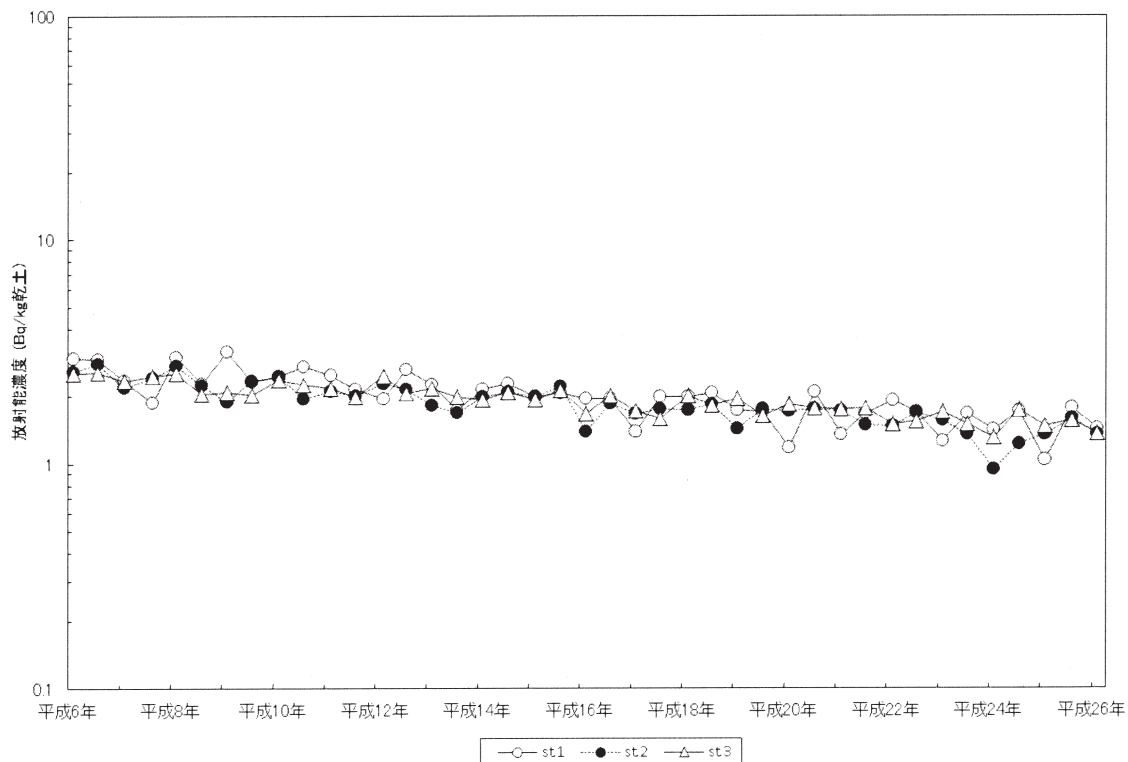
過去の核実験等で放出されたセシウム-137などの人工放射性物質の濃度は、近年、その半減期に従って徐々に衰退しています。

代表的なものについてグラフに示しました。



(注)グラフ作成の便宜上、測定結果が非検出であった場合、値を「10」としてプロットした。

よもぎ中のセシウム-137濃度の経年変化



海底沈積物中のセシウム-137濃度の経年変化